

令和8年度 春日出中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

Ⅰ「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

Ⅰ 全国学力・学習状況調査

※英語はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（CBT=Computer Based Testing）で実施。

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率 (%)		平均無解答率 (%)		平均IRTスコア 英語4技能 () 内は3技能 (参考)
			国語	数学	国語	数学	
3 年	学校	132	58	58	4.2	7.4	472 (473)
	大阪市	-	60	55	5.4	11.4	499 (499)
4月23日	全国	-	63.9	57.0	4.9	10.4	499 (499)

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

調査結果とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について

成果と課題

○全国学力・学習状況調査結果

<国語>

平均正答率においては、全国と比較して5.9ポイント低かった。無回答率は低いものの、記述式問題の無回答率は上がるので、書くことに対する苦手意識の高さが伺える。また、無回答率が全国よりも低い選択問題ほど正答率の低さも顕著となっていることから、知識や読解力が定着しているとは言えないと思われる。観点別にみても、「知識・技能」が4.2ポイント、「思考・判断・表現」が6.3ポイント全国より下回った。

<数学>

平均正答率においては、全国と比較して1.0ポイント上回っていた。学習指導要領の領域ごとの平均回答率は「数と式」で2.2ポイント、「図形」で0.4ポイント下回り、「関数」で7.1ポイント、「データの活用」で1.8ポイント上回り2領域においては課題が見られた。評価の観点ごとの平均回答率は「知識・技能」で1.2ポイント、「思考・判断・表現」で0.3ポイント上回った。問題形式については「選択式」で2.0ポイント下回り、「短答式」で2.3ポイント、「記述式」で0.3ポイント上回った。

<英語>

全国と比較して、IRTバンドの2に位置する生徒の数が11.8%多く、4に位置する生徒の数が9.9%少ない。「話すこと、聞くこと」では、正答数において全国平均から0.1/2 低い。「読むこと、書くこと」では、0.6/7 低かった。全体的に無回答率は低いが、正答率は低いので、問題を解いて、答えを出さなければいけないという気持ちはあるが、知識や理解が定着しているとは言えない、また、総合的読解力が身につけているとは言えないと思われる。「書くこと」、「話すこと」については無回答率が上がる問題もあり、単語や文章を書いたり話すことについて苦手意識があるのが伺える。

今後に向けて

○全国学力・学習状況調査結果

<国語>

3年生になり活用問題の課題を増やし、グラフや資料の読み取り問題に取り組む機会を増やしたので、今後も継続していく。また、書くことに重点をおき、授業や課題で様々な文章を書かせていくことで、書くことへの抵抗感を減らしていきたいと考える。

<数学>

概ね全国平均を上回ることができた。特に、関数の分野で基礎的な表の特徴を捉えて、xの値に対応するyの値を求めることができるかどうかをみる問題では全国平均より10.6%上回り、応用のグラフから読み取って数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する問題では7.8%上回った。しかし、事柄が成り立つ理由を文字を使って説明する問題や統合的・発展的に考え、事柄の特徴を数学的な表現を用いて説明する問題では全国平均とともに5%程下回り、筋道を立てて考え、証明する問題と具体的な事象を基に、証明する事柄の仮定を見いだす問題ではともに4%程下回ったので、文字を使った説明や、図形の証明といった数学的な表現を使って説明する能力の育成を重点的に行っていく。

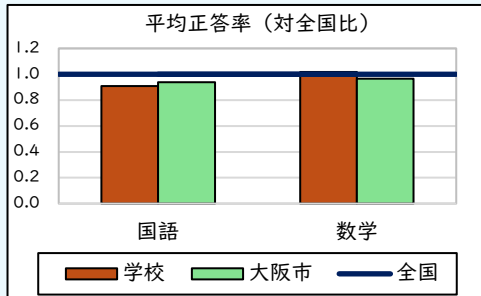
<英語>

教科書の内容を進めるとともに、英検、GTECに向けて、ペアでの英会話や読みトレの時間を帯活動で行っている。基礎の英語の語彙力や文法を理解しておく力は必要であるが、読みトレ等で初見の文を、正しく素早く考えながら読めるよう、継続的に行いたい。また、必要な情報をしっかり得た上で、自分のことを伝えたり、自分の考えや意見を英語で発する練習も普段から行いたい。特にC-NETの先生が来る授業では、実際にネイティブスピーカーと話して、伝わって嬉しい、と多くの生徒が思える機会を作り、意欲的に英語にかかわる姿勢を作りたい。

令和8年度 全国学力・学習状況調査 教科に関する調査結果の概要（国語・数学）

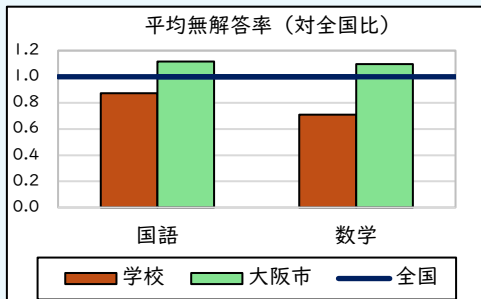
平均正答率（％）

	国語	数学
学校	58	58
大阪市	60	55
全国	63.9	57.0



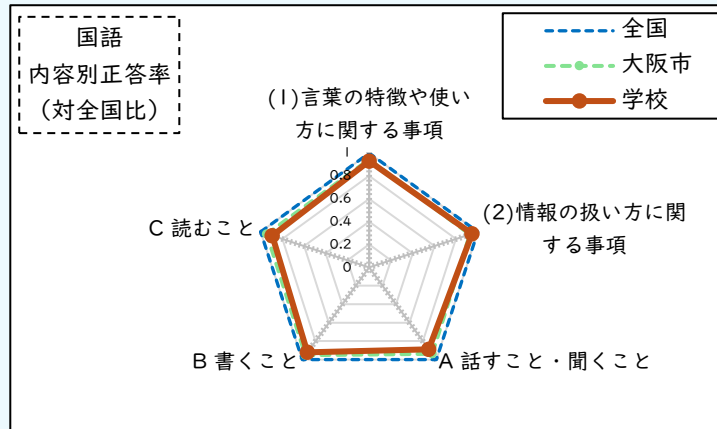
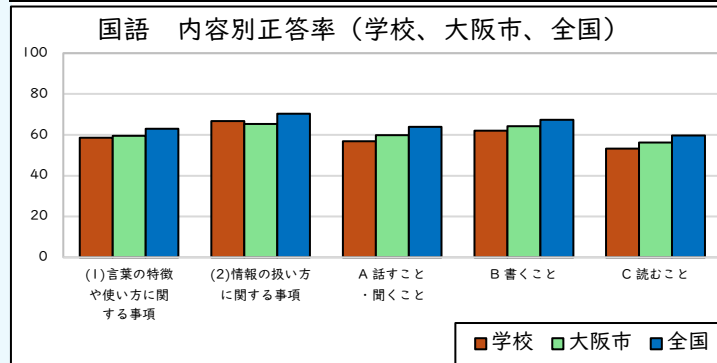
平均無解答率（％）

	国語	数学
学校	4.2	7.4
大阪市	5.4	11.4
全国	4.9	10.4



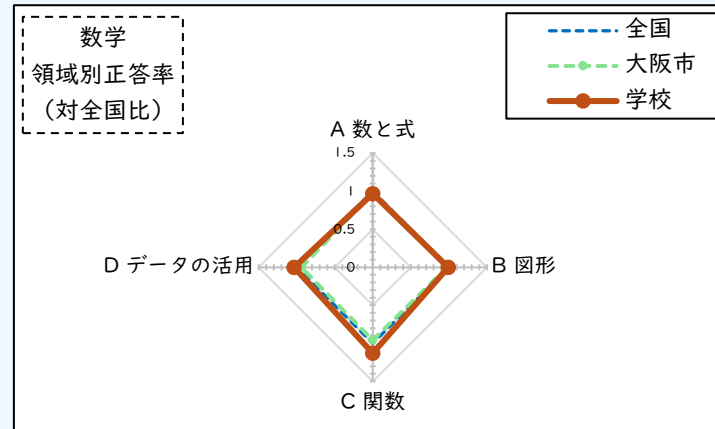
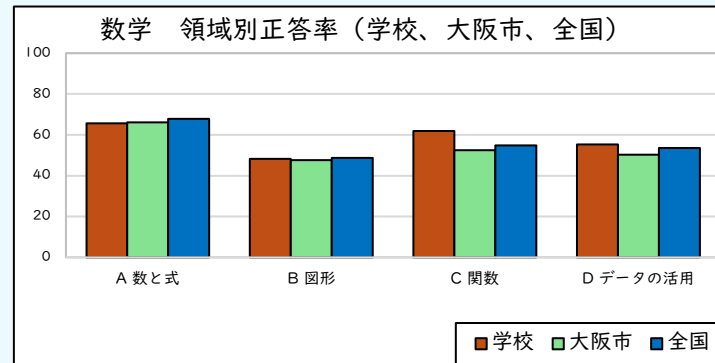
【国語】内容別正答率

学習指導要領の内容	対象問題数（問）	平均正答率（％）		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方にに関する事項	5	58.6	59.5	63.0
(2)情報の扱い方にに関する事項	1	66.7	65.3	70.4
(3)我が国の言語文化に関する事項	0	-	-	-
A 話すこと・聞くこと	3	56.8	59.9	63.9
B 書くこと	3	62.1	64.2	67.4
C 読むこと	3	53.3	56.3	59.7



【数学】領域別正答率

学習指導要領の領域	対象問題数（問）	平均正答率（％）		
		学校	大阪市	全国
A 数と式	5	65.6	66.1	67.8
B 図形	4	48.3	47.6	48.7
C 関数	3	61.9	52.5	54.8
D データの活用	4	55.3	50.2	53.5



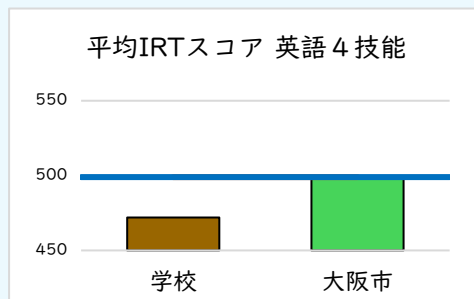
令和8年度 全国学力・学習状況調査 教科に関する調査結果の概要（英語）

英語 平均IRTスコア

学校	472 (473)
大阪市	499 (499)
全国	499 (499)

※ 4技能の平均IRTスコアです

※ () 内は3技能の平均IRTスコアです



【IRT(Item Response Theory：項目反応理論）とは】

児童生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

【IRTスコアとは】

IRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

導入する年（中学校英語は令和8年度）の全国平均を基準値とし、経年比較が可能な形で算出します。

【IRTバンドとは】

IRTスコアを1～5の5段階に区切ったものです。3を基準のバンドとし、5が最も高いバンドとなります。

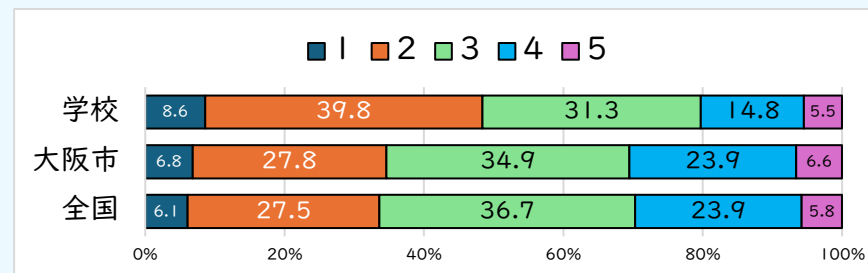
※IRTスコア・IRTバンドは、難易度の高い問題にしていると高めに、難易度の低い問題に誤答していると低めに算出されます。

IRTバンド分布比較（4技能）

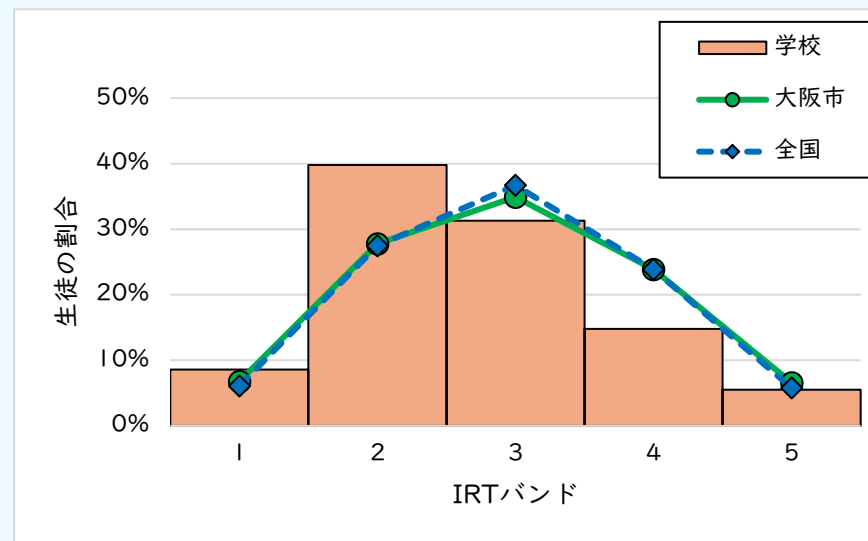
	1	2	3	4	5
学校	8.6	39.8	31.3	14.8	5.5
大阪市	6.8	27.8	34.9	23.9	6.6
全国	6.1	27.5	36.7	23.9	5.8

※ 4技能のIRTバンド分布です

IRTバンド分布比較（4技能）



IRTバンド分布グラフ（4技能）



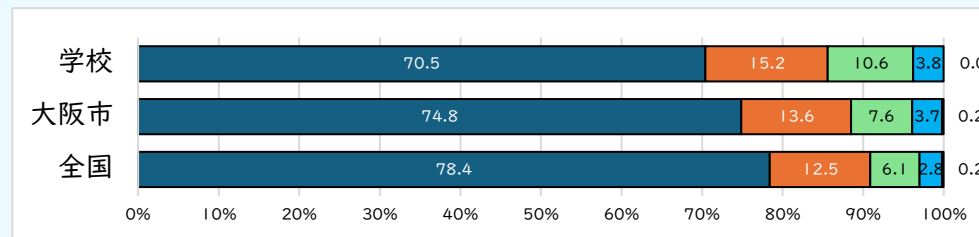
生徒質問調査より

※集計値を四捨五入するため、横軸合計が100.0%にならない場合があります。

■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 5 ■ 6 ■ 7 □ その他・無回答

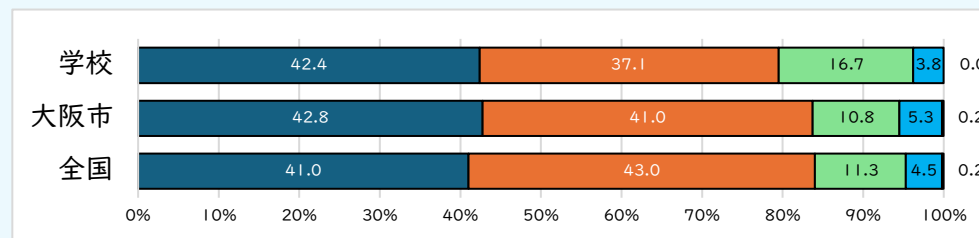
質問番号 質問事項

(1)	朝食を毎日食べていますか
-----	--------------



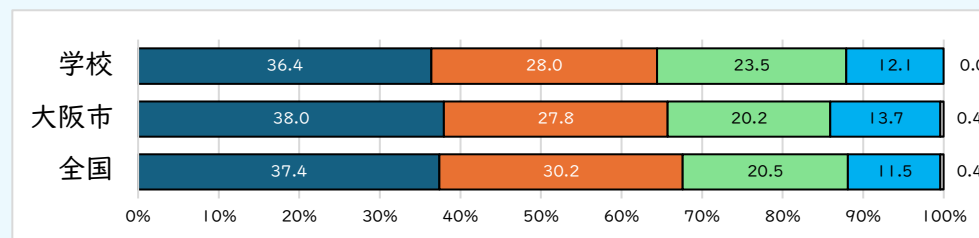
- 1 している
- 2 どちらかといえば、している
- 3 あまりしていない
- 4 全くしていない

(8)	自分には、よいところがあると思いますか
-----	---------------------



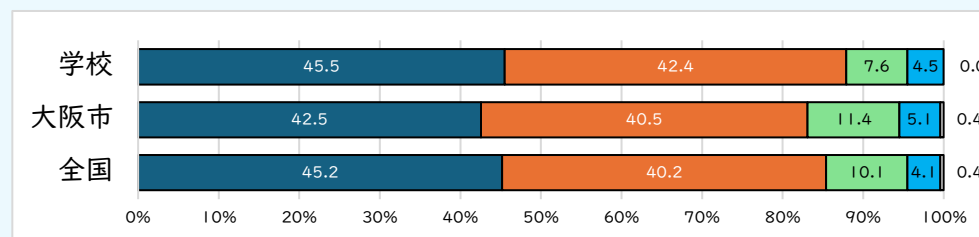
- 1 当てはまる
- 2 どちらかといえば、当てはまる
- 3 どちらかといえば、当てはまらない
- 4 当てはまらない

(10)	将来の夢や目標を持っていますか
------	-----------------



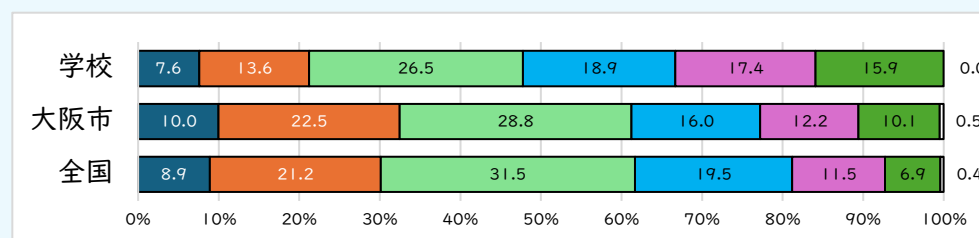
- 1 当てはまる
- 2 どちらかといえば、当てはまる
- 3 どちらかといえば、当てはまらない
- 4 当てはまらない

(15)	学校に行くのは楽しいと思いますか
------	------------------



- 1 当てはまる
- 2 どちらかといえば、当てはまる
- 3 どちらかといえば、当てはまらない
- 4 当てはまらない

(23)	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）
------	--



- 1 3時間以上
- 2 2時間以上、3時間より少ない
- 3 1時間以上、2時間より少ない
- 4 30分以上、1時間より少ない
- 5 30分より少ない
- 6 全くしない

学校質問調査より

※集計値を四捨五入するため、横軸合計が100.0%にならない場合があります。

質問番号

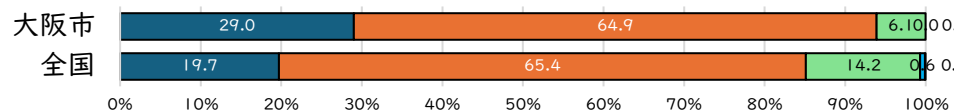
質問事項

■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 5 ■ 6 ■ 7 □ その他・無回答

(7)

調査対象学年の生徒は、熱意をもって勉強していると思いますか

【学校の回答】 2 どちらかといえば、そう思う

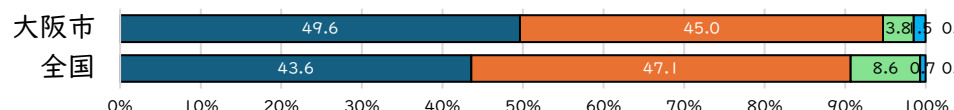


1 そう思う
2 どちらかといえば、そう思う
3 どちらかといえば、そう思わない
4 そう思わない

(8)

調査対象学年の生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか

【学校の回答】 1 そう思う

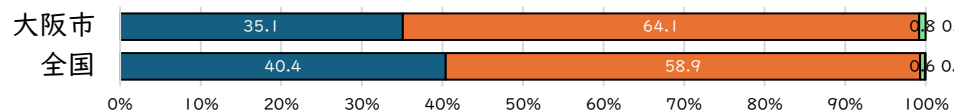


1 そう思う
2 どちらかといえば、そう思う
3 どちらかといえば、そう思わない
4 そう思わない

(16)

ICTを活用した校務の効率化（事務の軽減）の優良事例を十分に取り入れていますか

【学校の回答】 1 十分に取り入れている

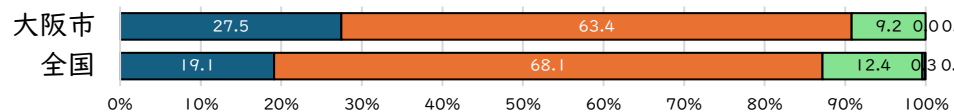


1 十分に取り入れている
2 一部取り入れている
3 全く取り入れていない

(26)

調査対象学年の生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか

【学校の回答】 1 そう思う

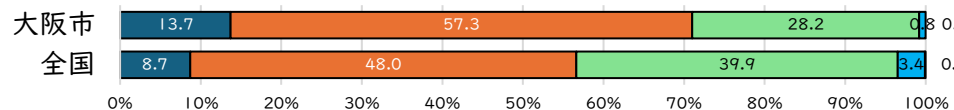


1 そう思う
2 どちらかといえば、そう思う
3 どちらかといえば、そう思わない
4 そう思わない

(30)

調査対象学年の生徒は、授業では、自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動を行っていると思いますか

【学校の回答】 1 そう思う



1 そう思う
2 どちらかといえば、そう思う
3 どちらかといえば、そう思わない
4 そう思わない